

所在地：目黒区下目黒 6 - 11 - 35 東急目黒線 武蔵小山駅 徒歩 15 分

学校名： 不動小学校		作成年月日：H.13.11.21	調査日：H.16.07/16.7/23
施設タイプ		水生園利用型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサザ、トチカガミの生育が良好であるが、水面を覆い観察しにくい状態になっている。</li> <li>・浅瀬にはイグサ、セリ、オモダカ、セキショウが定着し、良好な水際環境を維持している。</li> </ul>	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メダカ、ヤゴが確認された。</li> <li>・今年も、春には池にヒキガエルが卵を産み付け、多くのオタマジャクシが発生した。</li> </ul>	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明度もあり、良好な状態である。</li> <li>・給水は、理科委員会が行っている。</li> </ul>	
	周 辺 環 境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の樹木は伸長しており、水質維持のためにも、サクラの適切な剪定が必要になっている。</li> </ul>	
	土 壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カエルの入口になる斜路にも草本が生育するようになったが、強い雨により流出してしまい、土の補充及び固定方策が必要になっている。</li> </ul>	
活動状況	管 理 体 制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科委員会が中心になって育成・管理作業を行っている。</li> </ul>	
	管 理 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水は適切に管理されている。</li> <li>・植物の除去作業が不足しており、継続的な観察に基づく抑制作業が必要になっている。</li> </ul>	
	利 用 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科委員会での定期的な観察が行われている。</li> <li>・他の学年などでも授業で活用が開始されている。</li> </ul>	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体での授業などでの活用方法について検討を行っていく予定である。</li> </ul>	

#### 作成後の主な活動

年月日	活動内容	参加形態
H. 13.11.21	池の作成	理科委員会、5年生
12.04 12.11	泥の塗りつけ	5年生
14.04	水草の植え付け	5年生
15.	観察活動	理科委員会
16.	観察活動	理科委員会

調査時(平成15年6月)



アサザ、トチカガミ、コガマが繁茂し、水面をほぼ覆っている。



オモダカ、セリ、イヌビエなど水田雑草の特徴を有した草本環境が形成されており、貴重な環境となっている。



調査時(平成16年7月)



アサザの生育がよく、水面が見えない状態であり、適宜、浮葉植物の整理が必要である。



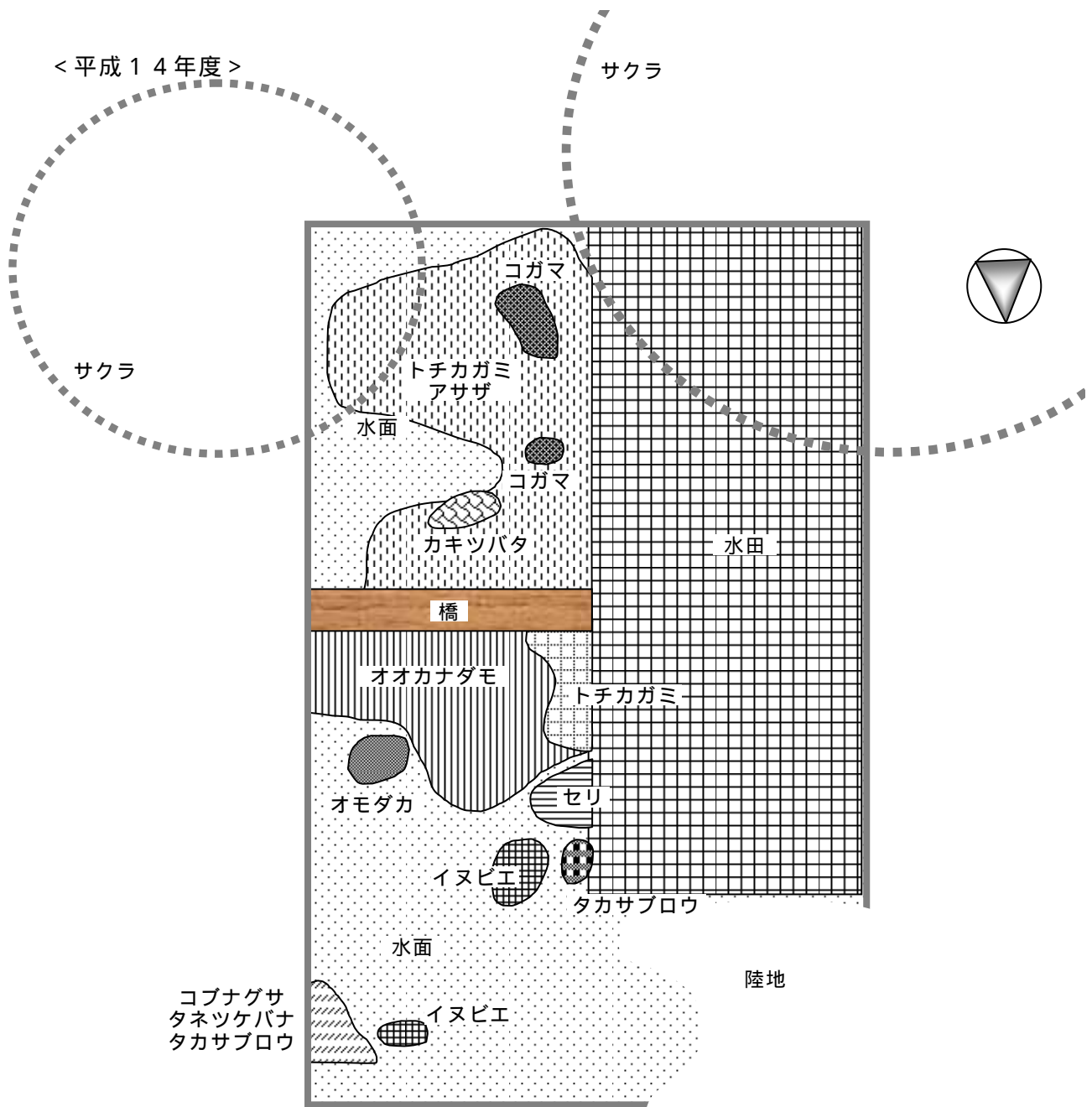
北側部分は、せり、オモダカなどが密に生育し、水際の植物環境をつくっている。



水辺と外部環境を結ぶ斜面は、角度が急になっているため、土が固定できない状況が続いており、石などと組み合わせた固定方法を試すことが考えられる。



隣接する稲の栽培部分にもアサザなどの浮葉植物が繁茂し、多様な水辺環境が創出されている。

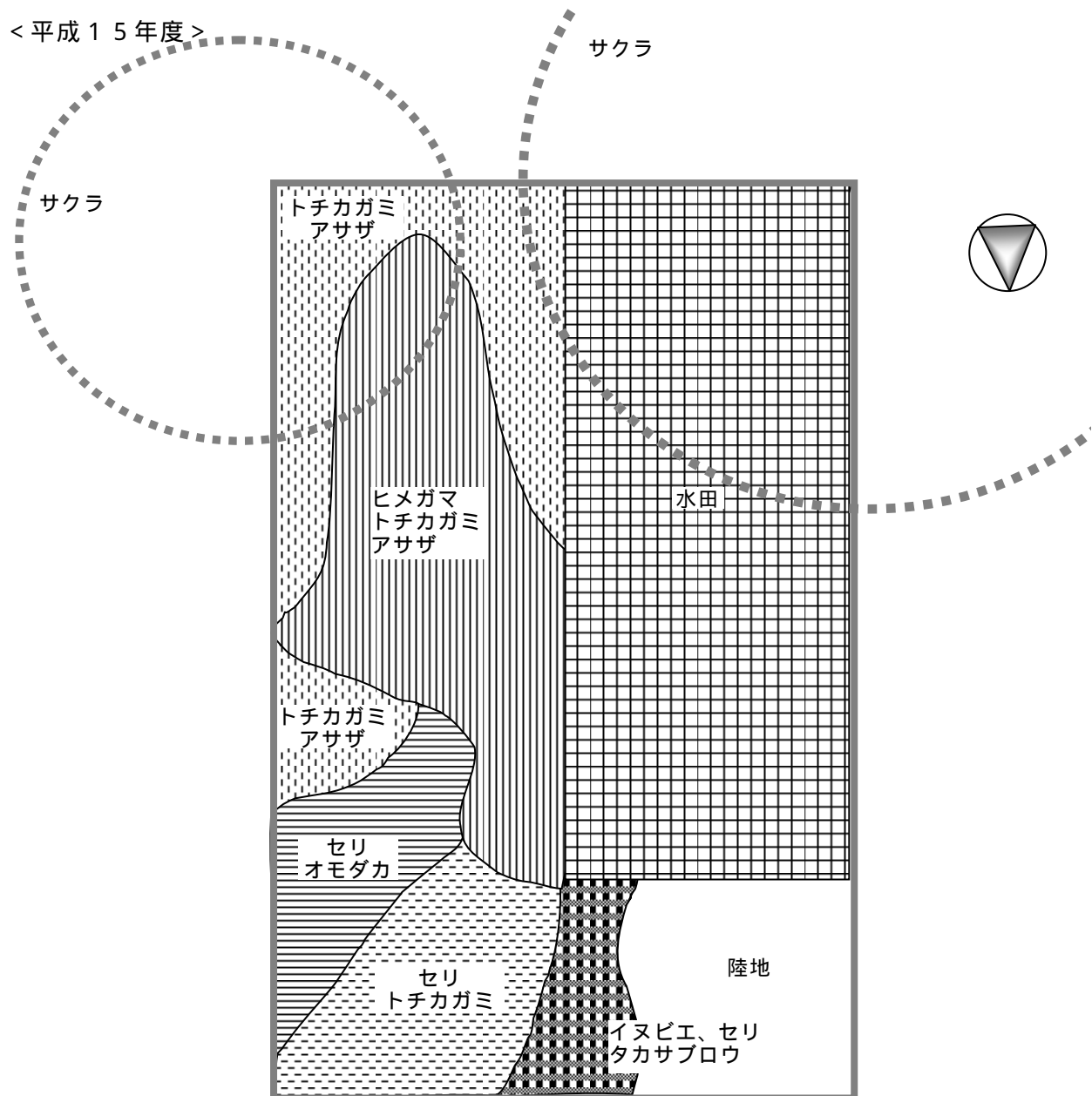


外周部との連続性を確保するため、傾斜部に土を残すようにし、湿地の植物と陸地部の植物の連続性を維持する必要がある。

日照条件、植物の生育状態は良好で、オオカナダモの除去を定期的に行えば、現在繁茂しているトチカガミやアサザの生育環境を確保できると考えられる。

不動小学校

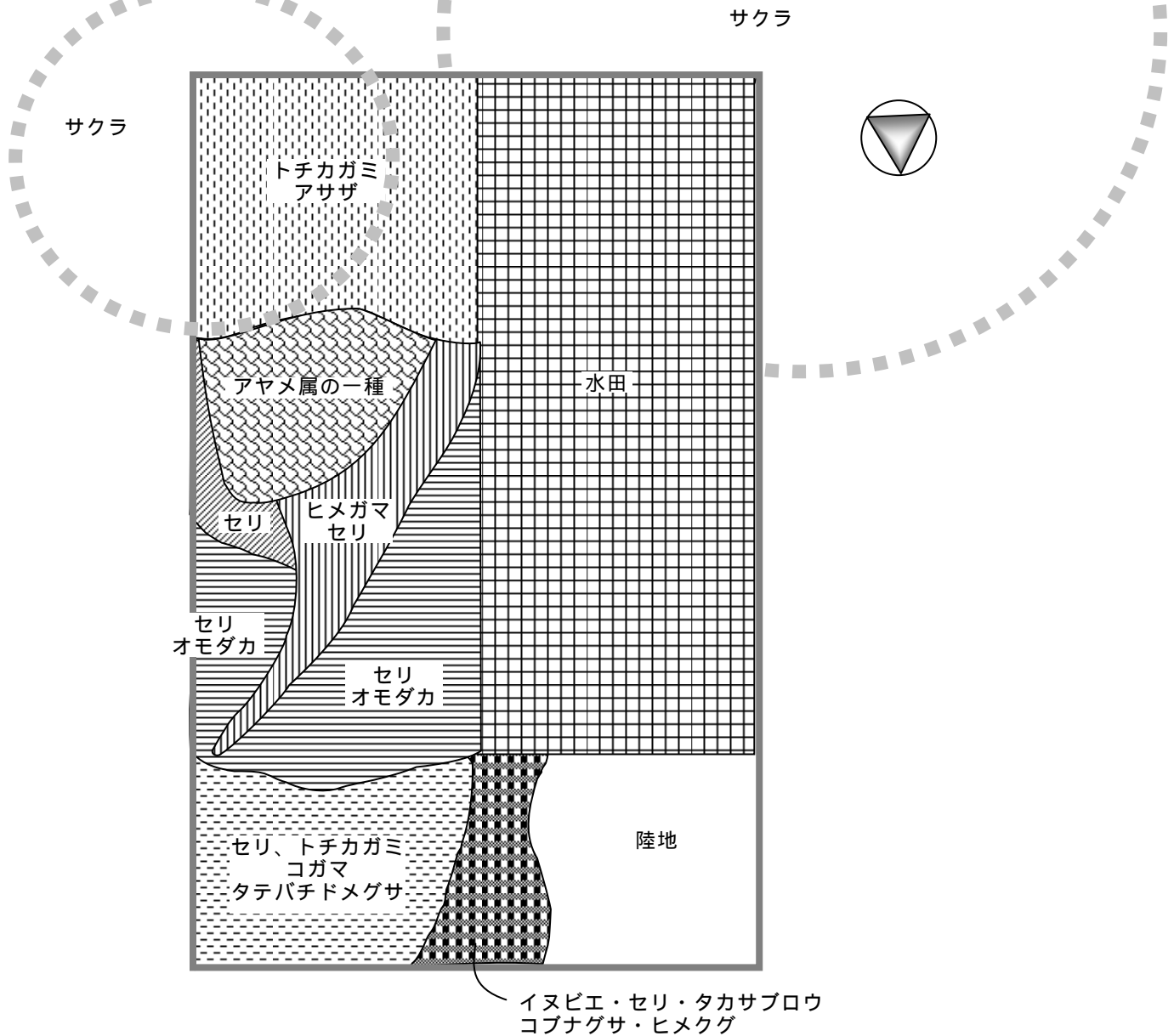
<平成15年度>



湿地の植物と陸地部の植物の連続性を維持するために、田んぼの土の補充を行った。このことにより、イヌビエ、セリ、オモダカ、ヒメガマなどが帯状に生育し、それぞれの適地で良好な生長を示している。

水生植物の生育状態は良好であるが、多様な種類の生育環境の確保とともに、水中を観察しやすくするためには、トチカガミ、アサザ及びオオカナダモを常時水面の半分程度に維持する必要がある。南側の樹木（サクラ）が伸長し、日陰になりやすくなったため、適切な剪定が必要になっている。

不動小学校  
<平成16年度>



湿地の植物と陸地部の植物の連続性は維持されており、コブナグサ、セリ、オモダカ、ヒメガマ、アサザなどが帯状に生育し、それぞれの適地で良好な生育を示している。

水草の生育状態は良好であるが、繁茂により水面が覆われている状況で、水中を観察しやすくするために、南側の半分を取り除いて、湿生植物とそこを利用する動物が観察しやすい区域を確保する方法が考えられる。

外来種のタテバチドメグサが陸地部に侵入しており、これについては早急に除去する必要がある。